

セッション1 透析室管理

02. 災害における行動マニュアルカードの有用性の検討

○福田 賢二 (フクケンジ)¹⁾、下田 遥菜¹⁾、東 哲士人¹⁾、小宅 育代¹⁾、雨宮 均¹⁾、
西山 謙一¹⁾、大石 竜²⁾

昭和大学藤が丘病院 臨床工学室¹⁾、昭和大学 統括臨床工学室²⁾

【背景および目的】 当院透析センターでは災害訓練を年2回行っている。しかし全スタッフが訓練に参加するのは勤務上難しい。今回、災害時の点検項目や報告事項などを周知し適確に行動する目的で災害時に携帯可能な行動マニュアルカード（以下カード）を作成し、それを用いた訓練を実施し、カードの有用性を検討した。

【方法】 点検手順と報告内容を記載したカードを使用して訓練を実施し、集中治療エリアでの水処理装置および透析装置の被害確認とリーダーへの報告までの時間をカードの携帯の有無で比較した。また訓練前後にスタッフにアンケート調査を行った。

【結果】 個人差はあるものの、報告までの時間の比較ではカード携帯の方が長かった。しかし報告に関してはカード携帯の方が報告漏れは少なかった。また、アンケートからもカード携帯無しでは正確な報告をするのは難しいとの意見が多くみられた。

【まとめ】 カード携帯の方が報告までに時間がかかってしまったのは、カード使用の訓練不足が原因と思われ、今後も訓練を継続することで時間短縮が可能と考える。また、カードを携帯している方が確実な報告が可能なることから、カードの有用性はあると考える。